

2002年(平成14年)12月23日(月曜日)

前新城市教育長

中西光夫

叻の一筆

一病息災というが、年寄りになれば、誰でも二つか三つの病気を所持つ。一病あるがゆえに人間その弱点を自覚するからこそ、養生もし、謙虚にもなり、懸命に生きようとするものだ。

私の弱点は、心臓と脳梗塞(こうそく)障害である。十数年前「陳



旧性心筋梗塞・狭心症」を患い、新城市市民病院より、国立豊橋東

の鈴木循環器部長(当時)に回された。以後十八回の入院、今年の

翌日、治療中の映像を示され説明を聞いた。「左冠動脈の幹線、ここが狭窄(さく)していたので、すでに挿入してある二つのステント(網状の金属ステンレス)部分も、一緒に限界までの圧力をかけ、血管が裂ける寸前のところで、このように扱いました。これでまた狭くなれば、今度はドリルで堅い血管を

一病息災

八月、豊橋ハートセンターで、九回目のPTCA(経皮的冠動脈形成術・バルーン、風船ともいう)を受けた。

あ、さっきの声は、強い圧力の秒単位数かと、胸の痛みをぐっと我慢した。

患者に手術中の経過を話して、不安を除いてくれるのは有り難い。以後二時間半「成功です。よく頑張りました」と、明るい院長

手術台の上で、数人の医師スタッフによる治療中、「23・25・26・27」という声が聞こえ、胸に痛みがくる。頭元で「あなたはほほ

の音が聞こえた。

毎回、付き添ってくれる娘が、「お父さん、今度も半年の命を延ばしてもらったネ」とささやいた。天下の名医と、一病息災のたまものである。